

令和4年度 校内研究

令和4年度 北海道函館高等支援学校 校内研究計画

【本校の校内研究の目的】

- 1 本校の教育課程の改善充実を目指す。
- 2 教職員の専門性の向上を図る。
- 3 教職員の協働意識を高め、チーム学校力を向上させる。
- 4 研究の成果を日常実践に活かすと共に、研究成果を積み重ね、指導・支援におけるHKSスタンダードの確立を目指す。

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

～2年次副題：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善 「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成

1年次副題：主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

3年次副題(案)：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の活用(研究のまとめ)

2 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、教師がその基礎・基本を踏まえた授業の在り方や組み立て方について具体的に共通理解を図り、実践をするとともに、生徒も授業の内容や進め方を理解し、教師と同じイメージをもって学習に取り組むことができるようになれば、生徒が見通しをもった「わかる」「できる」「いきる」授業となり、それぞれの学びの場における授業改善を深めることができるであろう。

3 テーマ設定の理由

(1)昨年度のまとめから

本研究は「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善をテーマとした3か年研究の2年次の研究である。

1年次には、学習指導要領より「主体的・対話的で深い学び」についての基礎・基本をまとめ、それを基に各自が研究授業を通して、その在り方について考察した。

その中で、「主体的・対話的で深い学び」においては、学習が、「生徒自身の学びとなっている」ことが大切であること、そのためには、生徒にとって学習内容や方法が「わかる」ことが重要であることなどについて改めて認識することができた。

2年次の研究は、1年次の実践を通じた成果や課題を基に、授業をデザインしていくための具体的な視点を設定し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を充実させることをねらいとする。

(2)授業改善の視点「わかる」「できる」「いきる」

前出のように、「主体的・対話的で深い学び」のキーワードを「生徒自身の学びとなっている」と押さえながら、授業改善の視点として設定したものが「わかる」「できる」「いきる」である。

「わかる」は、主に「主体的な学び」と関連し、授業の導入段階において、生徒が学習目標を理解しながら学習に見通しをもてるようにすることと、学習目標の達成に必要な基礎的、基本的な知識・技能を習得し、次の発展的な段階への準備ができるような授業作りを目指す視点である。

「できる」は前段階での基礎・基本をもとに、授業の展開の段階において学びを発展し深める学習活動を目指す視点である。

ここで「できる」という言葉を使用している理由は、「できているというのはどういう状況か」を明らかにし、「わかる」段階での指導が十分であったかの、指導の評価が大切であることを示している。

「いきる」については大きく2つの意味を含んでいる。

1つ目は、次の授業、次の単元や次年度の学習に生かされる力が付いたかという意味である。

2つ目は、本研究のテーマである「体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方」として、学習内容が生徒の現在の生活や卒業後の生活に生きてはたらく力となっているかという意味である。

「いきる」は授業のまとめの段階において、自己評価等により学習の成果や課題を振り返り、次の学習の目標や課題を設定し、より主体的な学びができるように意識を高めるための視点であるとともに、教師が指導の評価を行う際に単元・題材等の計画全体を評価する視点となるものでもある。

(3)「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成

「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本を押さえた授業作りについて、教師全員が共通理解を図り、教科の種類や学習内容によらず、「生徒自身の学びになる」授業作りができるようになるために、前出の「わかる」「できる」「いきる」を視点とした授業改善を進めるにあたり、「授業デザインガイドブック」を本研究を通して作成する。

また、その内容と対応する生徒向けの「学習の手引き」を合わせて作成する。

これは、生徒が本校の学校教育目標や校訓に示された意味、「授業」の組み立てや受け方を理解することにより生徒の主体性を引き出すことを期待するものである。

教師が「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を進めるとともに、学習の場について生徒への意識づけを図ることで、より「生徒自身の学びになる」授業作りを目指したい。

4 今年度の研究の視点（研究仮説を検証するために取り組む内容の具体化）

(1)『「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項』を基に、「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点を設定し、各教師が担当する日常の授業で次のような実践を行う。

ア 単元・題材の導入時、毎時間の導入時

- ・学習予定の提示
- ・学習目標の提示
- ・学習の基礎・基本となる知識、技能の習得

イ 単元・題材の展開時、毎時間の展開時

- ・「ア」の指導が生かされて、「できる」状況ができているかについての評価

ウ 単元・題材のまとめ、毎時間のまとめ

- ・自己評価、振り返り
- ・指導の評価

(2) 各自の日常実践とグループ研究により、『「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点』を基に、生徒向けの「学習の手引き」と教師向けの「授業デザインガイドブック」を、内容を対応させて作成し、研究授業等を通して成果を確認する。

5 「学習の手引き」と「授業デザインガイドブック」について

(1) 概要

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の在り方を、「生徒自身の学びになる」授業作りを目指すことと押さえ、『「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点』を中心に、学習指導全般に共通理解すべき内容を基に作成する。
- イ 『「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点』について、具体的、実地的であるとともに、教師間及び生徒と教師が共通して理解し、日常実践において活用される内容となるようにする。
- ウ ア、イについて、必要なことを全て詰め込むのではなく、合い言葉のように思い出し、普段から様々な場面で使えるような表現や分量でまとめる。
- エ 年度初めの授業のオリエンテーションや日常の授業など、実際の活用場面を想定して制作し、年間指導計画などに位置づけられるようにする。

(2) 作成手順

- ア 「学習の手引き」
 - ・教務部研究係が作成した（案）をたたき台とし、グループ研究を通してそれぞれの担当箇所を作成する。
- イ 「授業デザインガイドブック」
 - ・「学習の手引き」の作成と並行して各グループが担当する箇所について指導のポイントや共通理解を図るべき事項についてまとめる。

(3) 「学習の手引き」の内容と趣旨、ねらい

項目	「学習の手引き」の内容	項目の趣旨、ねらい	「授業デザインガイドブック」で押さえない事項
ア 本校の教育が育成を目指す力について	・これからの時代を生きるために大切な力 ・学校教育目標 校章とスクールカラー ・校訓について 探究 協働 健全	・これからの時代に求められている資質能力と「校訓」を関連させ、学校教育が育成を目指す力について説明し、日常の学習活動の中で意識できるようにする。	・育成目指す資質・能力と各教科等の関連を再確認し、授業改善の視点とする。
イ 授業の組み立てについて	・授業の組み立て 3つの段階 第1段階「わかる」何をするのかを理解する段階 第2段階「できる」「基礎・基本」をもとに考えたり表現したりする段階 第3段階「いきる」学習をふりかえり次の学習や生活に生かせるようにする段階	・生徒が「学習予定」、「学習目標」、「基礎・基本」を理解して、それを基に学習を展開、深めていく授業の組み立てについてイメージをもつとともに、「主体的・対話的で深い学び」についての意識をもてるようにする。	・教師の日常的な学習指導の基本的な形を整理し、各授業における組み立てを共通理解することにより、「生徒自身の学びになる」授業改善の視点とする。
ウ 学習の取り組み方について	・学習のルール、心得、マナー ・話し合いでのルールとマナー ・調べ学習のポイントについて	・学校における学習活動の基本的なルールやマナーなどについて理解できるようにする。	・ルールやマナーを守りながら、「主体的…な学び」となるための指導のポイントを押さえる。
エ 個別の教育支援計画と個別の指導計画について		・2つの計画についてより有効に活用されるよう、意識付けを行う。	・各計画をより有効活用するとともに、適切な目標設定と学習評価のポイントを押さえる。
オ 教科等について	・各教科等について ・自立活動について ・進路学習	・教育課程の概要を理解するとともに、障害の受容や他者理解、多様性理解、出口の教育として在り方などについて、本校の特徴に照らして生徒の理解を深められるようにする。	・個への指導の充実と学校、集団としての指導の在り方について、教育課程全体の中での位置付けを押さえ、各教科等の授業改善の視点とする。 ・年度初めのLHRや学年集会など、実際の学習活動や年間指導計画へ位置付ける。

6 研究推進日程

取組	実施日	取組内容	備考
校内研究 1	5/19(木)	○令和 4 年度北海道函館高等支援学校 校内研究計画提案・意見集約アンケート ○研究グループ希望集約	全体研究 50 分
校内研究 2	6/28(火) 29(水)	○学習の手引き・授業デザインガイドブ ック案作成① ●グループ担当分について検討 ・原案とアンケートからの意見 ・作成の進め方、分担など	グループ研究 35 分×2 回
分掌部会	7/1(金) 5(火)	○授業デザインガイドブック案検討 ・分掌に関連した内容について分掌部 会で検討する。	
校内研究 3	7/21(木)	○学習の手引き・授業デザインガイドブ ック案作成② ○校内研究会授業者の選出	グループ研究 50 分
教科会議	8/23(火)	○授業デザインガイドブック案検討 ・各教科等に関連した部分の内容につい て検討	
校内研究 4 研究アドバ イザー研修	8/24(水)	○研究アドバイザー基調講演 ○グループ研究の中間報告 ○校内研究授業期間の研究授業指導案検 討	全体研究 グループ研究 合わせて 120 分
校内研究授 業期間	9 月～10 月		
校内研究 5	10/27(木)	○校内研究授業期間の研究授業指導案研 究協議 ○学習の手引き・授業デザインガイドブ ック案作成③ ・グループ担当分についての最終案検討	グループ研究 50 分
校内研究会	12/5(月) (予定)	○研究授業(3 本) ○研究協議	午前授業 全体研究 7 時間
校内研修会	1/11(水) (予定)	※地域連携研修としての実施を検討	全体研究 3 時間
校内研究 6	2/22(水)	○今年度研究のまとめ ・今年度研究の成果と課題 ・次年度の研究について	全体研究 50 分

7 研究グループ

(1) グループ編成について

- ア A～D4 グループを編成し、「学習の手引き」の担当箇所について原案を基に内容の検討、作成をしながら、合わせて教師用の「授業デザインガイドブック」案を作成します。
- イ 各先生から参加希望を集約し、人数を調整して編成します。(第3希望まで)
- ウ 校内研究2までに調整、ご確認いただきます。
- エ 研究計画アンケートの意見等により、今後編成を変更する場合があります。

(2) グループと担当する項目 ・メンバーの※はご参加をお願いしたい先生です

	項目	「学習の手引き」の内容	教務担当者	メンバー
A	本校の教育が育成を目指す力について	• これからの時代を生きるために大切な力 • 学校教育目標 校章とスクールカラー • 校訓について 探究 協働 健全	○菊地 祐川 今村	
	授業の組み立てについて	• 授業の組み立て 3つの段階 第1段階「わかる」 何をするのかを理解する段階 - 第2段階「できる」 「基礎・基本」をもとに考えたり表現したりする段階 - 第3段階「いきる」 学習をふりかえり次の学習や生活に生かせるようにする段階		
B	学習の取り組み方について	• 学習のルール、心得、マナー • 話し合いでのルールとマナー • 調べ学習のポイントについて	○関口 厚谷	(5名)
C	個別の教育支援計画と個別の指導計画について		○能代 構口	※進路・支援部から (5名)
D	教科等について	• 各教科等について • 自立活動について • 進路学習について • その他	○吉田 佐々木 高佐 木戸 山谷	※自立活動担当 ※進路・支援部から (15名)

8 過年度研究と今年度以降の研究内容

内容 年度		カリキュラム・マネジメントの確立		「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
		教育課程の基本となる計画の確認	単元・題材の計画と学習評価		
第1期	R1年度	◎	○	△	△
	R2 〃	○	◎	△	△
第2期	R3 〃	○	○	◎	△
	R4 〃	△	△	◎	△
	R5 〃	△	△	◎	△
第3期 R6以降		研究主題(仮)知識基盤社会における知的障害教育の生きる力、働く力の再考			

◎：重点となる内容 ○：重点と合わせて取り組む内容

△：今後に向け試行、準備すべき内容・テーマに沿って必要に応じて取り組む内容。

9 今年度研究推進の方針・方法

(1) 日常実践を通じた研究を推進し、成果を日常の学習指導に生かす。

(2) 授業研究について

ア 原則として3年に1回以上は当該年度の研究テーマに基づいた研究授業に取り組む。

エ 初任段階研修3年次までの対象者は初任段階研修の一環として研究授業に取り組むこととする。

(3) 研究広報の活用

(4) 公開研究会

ア 1年次、2年次は校内研究会とする。

イ 3年次研究のまとめを公開研究会として発表する。(令和5年度予定)

(5) 研究紀要作成

1年毎に紀要としてまとめ、3年次に3年次及び3カ年の研究成果を研究紀要としてまとめる。

(6)その他

10 R4 校内研究会及び R5 公開研究会の研究授業の授業者について

(1) 校内研究会及び公開研究会の授業者は前記「7 (2) ア」によらず教諭全員より選定する。

(2) 今年度は、今年度校内研究会の授業者と合わせて次年度公開研究会の教科等の選出を行う。

(3) 校内研究会及び公開研究会の授業者は、原則として令和元年度以降の校内、公開研究会の授業者を除いて選出する。

11 3カ年の取組一覧

年度	研究会	研修会(講演会)	研究紀要の内容
R3 (終了)	× 校内研究会(12月)	○ 地域連携研修(講演会)	△ R3年度の研究の概要と まとめ
R4	× 校内研究会(時期未定)	○ 実施予定(講演会)	△ R4年度の研究の概要と まとめ
R5	○ 公開研究会(時期未定) ※一般参加者あり	○or△ 実施予定(講演会) ※公開研究会で設定?	○ R5年度の概要とまとめ 3カ年の研究のまとめ

R4年度

校内研究のまとめ

1

本校の校内研究の概要

1 校内研究計画の概要

(1)研究期間 令和3年度～令和5年度

※令和4年度は3年計画の2年次

(2)テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

2 令和3年度 校内研究の概要とまとめ

(1)1年次研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

副題 : 「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

(2)研究内容

ア「『主体的・対話的で深い学び』についての基本的な事項」の作成

※学習指導要領及び解説等から「主体的…学び」の主旨についての基本的な内容を整理したもの。

イ「ア」を基に各自が研究授業を行い、成果や課題について考察する。

ウ「イ」により考察した内容を基に本校における「主体的…学び」についてまとめ、共通理解を図る。

2 令和3年度 校内研究の概要とまとめ

(3)校内研究会研究授業

- ・ 英語 普通科1年 松本教諭
- ・ 音楽 3学年 高橋教諭
- ・ 理科 生産技術科1年 渡部教諭

(4)成果と課題

ア 成果

- ・ 学習指導要領等に示された「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を確認できた。
- ・ 各自が研究授業を通して「主体的…学び」を実践し、それを基に本校における「主体的…学び」について考察することができた。

イ 課題

- ・ 「主体的…学び」の考え方については確認したが、実際の指導に生かすことや、指導がその趣旨に照らして妥当なのかどうかの判断が難しい。

2 令和3年度 校内研究の概要とまとめ

(5)本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方

本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方を、R3年度の研究成果と課題を基に次のようにまとめました。

【本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方】

- 1 これまで行ってきた学習指導を、学習指導要領に示された『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の趣旨に照らして整理し、学習活動の質を改善・充実させるものである。
- 2 生徒の実態に応じ、生徒自身の学びとなり、生徒の生活にいきる学力の育成を目指すものである。
- 3 本校における学習指導の基礎・基本として共通理解を図り、各授業の実践に反映させるものである。

【本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点】

「生徒自身の学び」となるための視点としての「わかる・できる・いきる授業のデザイン」

2

令和4年度 校内研究計画

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」
～2年次副題：「わかる」「できる」「いきる」
授業のための授業改善 「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成

2 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、教師がその基礎・基本を踏まえた授業の在り方や組み立て方について具体的に共通理解を図り、実践をするとともに、生徒も授業の内容や進め方を理解し、教師と同じイメージをもって学習に取り組むことができるようになれば、生徒が見通しをもった「わかる」「できる」「いきる」授業となり、それぞれの学びの場における授業改善を深めることができるであろう。

3 テーマ設定の理由

(1) 昨年度のまとめから

「主体的・対話的で深い学び」について、「生徒自身の学びになる」ことが大切であることを再認識した。

(2) 授業改善の視点「わかる」「できる」「いきる」

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業改善を実践を通して考察するため。

(3) 「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成

教師と生徒、双方が「生徒自身の学びになる」授業作りについて共通理解を図るため。

4 今年度の研究の視点（取組の具体的な内容）

- (1) 『「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項』を基に、「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点を設定し、各教師が担当する日常の授業で次のような実践を行う。
- ア 単元・題材の導入時、毎時間の導入時
 - ・学習予定の提示
 - ・学習目標の提示
 - ・学習の基礎・基本となる知識、技能の習得
 - イ 単元・題材の展開時、毎時間の展開時
 - ・「ア」の指導が生かされて、「できる」状況ができているかについての評価
 - ウ 単元・題材のまとめ、毎時間のまとめ
 - ・自己評価、振り返り
 - ・指導の評価
- (2) 各自の日常実践とグループ研究により、「『わかる』『できる』『いきる』授業のための授業改善の視点」を基に、生徒向けの「学習の手引き」と教師向けの「授業デザインガイドブック」を、内容を対応させて作成し、研究授業等を通して成果を確認する。

3

令和4年度 校内研究の実際

1 研究の経過

取組	実施日	取組内容
校内研究 1	5/19(木)	○令和 4 年度北海道函館高等支援学校 校内研究計画提案・意見集約アンケート ○研究グループ希望集約
校内研究 2	6/28(火) 29(水)	○学習の手引き・授業デザインガイドブック案作成① ○グループ担当分について検討
分掌部会	7/1(金) 5(火)	○授業デザインガイドブック案検討 ・分掌に関連した内容について分掌部会で検討する。
校内研究 3	7/21(木)	○学習の手引き・授業デザインガイドブック案作成② ○校内研究会授業者の選出
教科会議	8/23(火)	○授業デザインガイドブック案検討 ・各教科等に関連した部分の内容について検討
校内研究 4 研究アドバイザー研修	8/24(水)	○研究アドバイザー基調講演 ○グループ研究の中間報告 ○校内研究授業期間の研究授業指導案検討
校内研究 5	10/27(木)	○校内研究授業期間の研究授業指導案研究協議 ○学習の手引き・授業デザインガイドブック案作成③
校内研究会	12/5(月)	○研究授業 1年数学 2年作業学習 3年総合的な探究の時間 ○研究協議
校内研究 6	2/22(水)	○今年度研究のまとめ ・今年度研究の成果と課題 ・次年度の研究について

2 「校内研究1」について

- (1) 内容
- ①R4校内研究計画の提案
 - ②「学習の手引き」原原案提案
 - ③アンケート(①、②について)

(2) アンケートの結果から

- ・研究の内容、方法については妥当。
- ・「学習の手引き」については、活用できるものにするための内容の工夫が必要。

3 「校内研究 2, 3」について

- (1) 内容
- ①「学習の手引き」 原案提案
 - ②「学習の手引き」「授業デザインガイドブック」の作成要領について説明

(2) 取り組みの進め方

内容②について、アンケートの結果を含めてグループ別に「手引き」「ガイドブック」の内容を検討。

4 「校内研究4」について

(1) 内容

- ①研究アドバイザー研修
- ②各グループの「手引き」「ガイドブック」作成の中間報告と今後の取り組み方について

(2) 研究アドバイザーからの助言

- ・「手引き」は文字を少なく。
- ・「できる」から「いきる」へつなげることが難しい。

(3) 各グループからの中間報告

- ・「手引き」「ガイドブック」の加除修正案について説明し、今後の作成手順を説明

5 「校内研究 5」 について①

(1) 内容

①校内研究会指導案検討

- ・教科等 田野教諭 (1年普通科数学)
- ・普通科 大町教諭 (3年普通科総合)
- ・職業学科 能代教諭 (2年生産技術科作業)

②「本校における『授業デザインガイドブックと「わかる」「できる」「いきる」の視点』の具体的な内容と、日常実践における共通理解について」提案

③アンケート (上記②について) 集約結果より主な意見を次ページに

「わかる」「できる」「いきる」の視点の具体的な内容について

令和3年度
の取組

学習指導要領における「主体的、対話的で深い学び」

「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項

学習指導要領に示された「主体的…学び」の趣旨を整理してまとめたもの

「主体的…学び」について各自が研究授業の実践を基に考察

・まだまだ教師主導・活動しているけど、
考えたり感じたりしているのか？

「主体的…学び」のポイント：「生徒自身の学び」となること

各先生の研究授業を通じた考察からまとめられたキーワード

「生徒自身の学び」になるための視点「わかる」「できる」「いきる」

授業改善の視点を指導場面と対応させて整理

「わかる」「できる」「いきる」の視点の具体的な内容について

「生徒自身の学び」になるための視点「わかる」「できる」「いきる」

「わかる」

「できる」ための準備として学習への見通しもつことや、学習に必要な基礎・基本を習得し、「主体的な学び」を引き出すための視点

○学習の基本的な指導事項

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得

「できる」

何がどのように「できる」かのイメージを具体的に「見方・考え方」による学習目標達成に向けた学習活動を工夫し、「対話的な学び」「深い学び」となるための視点

○授業者が学習目標に対して「ただできる」のではなく、どのように「できる」ことが目標の達成かのイメージを明らかにすること。
○そのような学習活動となるための、教材教具、体験などの「どのように学ぶか」を工夫すること。

「いきる」

育成された資質・能力が、どこでどのように「いきる」かを明らかにして、そこで「生きて働く力」となるために、どのような学習活動が「できる」ことが必要かを考えるための視点

○3つの「いきる」場

☆次の学習に「いきる」

→「見方・考え方」を生かした学習活動

☆他の学習に「いきる」

→教科等横断的な視点「学習の基盤となる力」

☆生活に「いきる」

→教科等横断的な視点「現代的な諸課題に対応する力」

※校訓の活用

○学習の基本的な指導事項

- ・「自己評価」

5 「校内研究 5」について②

(2) 校内研究 5 アンケートから

「本校における『授業デザインガイドブックと「わかる」「できる」「いきる」の視点』の具体的な内容と、日常実践における共通理解について」（案）に対しては、「わかる…」他 3 つの視点が分かりやすく説明されていた。作成手順がよく整理されている。など、概ね妥当な内容との意見が多く出されました。

また、考え方としては理解できるが、実践で取り組む場合の課題として次のような事項があげられました。

- ・活動の良さや目標を理解することが難しい生徒の指導に対応できるか。
- ・「生徒自身の学び」が難しい。講義形式になりがち。
- ・「なぜ学ぶか」をなかなか伝えられない。
- ・学習目標と事後の評価がリンクしない。
- ・「わかる」→「できる」だけでなく「できた」ことで「わかる」こともある。
- ・目標、予定の提示や板書なども共通した方法で行えば生徒が捉えやすい。
- ・教科学習では、校訓や「いきる」との関りが見いだせないものもある。

6 校内研究会 研究授業の概要

①授業者 ②クラス ③教科等 ④単元名	研究授業のあらすじ	指導案における「わかる、できる、いきる」の視点		
		わかる	できる	いきる
①能代教諭 ②生産2学年 ③作業学習 ④コーヒー豆加工	コーヒー豆の製造について、生徒が現在の製造状況を基に製造の量や役割分担を主体的に協議し作業を進めていく過程を通して、社会的な自立につながる力を付ける。	作業内容、量を主体的に判断できる情報の提示。	作業内容を主体的に話し合える環境づくりや言葉がけなどによる支援。	次の学習にいかす自己評価。
①大町教諭 ②普通3学年 ③総合的な探究の時間 ④地域の魅力を発信	自分たちの住む地域を題材に、その歴史や文化の魅力を調べ、音声付きスライドで発表するまでの調べ学習を通して、探究的な活動の基礎基本を学ぶ。	試作品の提示で発表方法に見通しをもたせる。	ゲストティーチャーの活用や、グループの発表内容の相互評価による学習の深化。	課題設定から情報収集、整理分析、発表の一連の流れを理解し、調べ学習の基礎的な力を付ける。
①田野教諭 ②普通科1年 ③数学 ④円柱の体積の求め方	飲料水を例にしながら、公式を用いて体積の計算や比較を行うことを通して、生活の中の数量を数学的に処理することを学ぶ。	基礎基本となる公式の確認と学習内容の提示の工夫で見通しをもたせる。	日常生活において経験したことを基に理解を深められるように、問題解決的に進める。	学習したことを生活に生かせるような振り返りの活用。

6 校内研究会 研究協議

研究協議・意見シートで出された主な意見

能代教諭・作業

- ・展開の冒頭で受注数や納期などから、本日の作業内容や製造数などを決める場面は、生徒の意識付けとして、「わかる」（必要な情報から判断）から「いきる」（何をどのくらいどうする）につながる重要な場面だった。
- ・見通しをもてる「わかる」状況作りが、対話を生み、また、知識・技能を活用した上で、個々の主体性や判断につながっていると感じた。
- ・情報の伝達は最小限ながらもきちんとポイントを抑えており、生徒の「わかる」支えとなり、生徒自身が自分で「できる」実感をもてた。
- ・コーヒー豆の作業についての流れや見通し、仕組みなどがわかっていないと、生徒たちが主体的に動けないと思います。「わかる」が「できる」「いきる」につながることがわかった。

大町教諭・総合

- ・探究の一連の過程を繰り返すことで「わかる…」状況作りができていた。
- ・ゲストティーチャーにより事前に情報を得、それを生かす手立てが有効で、より「わかる」に繋がったと思う。
- ・音声ガイド付きスライドの活用が「できる」に生かされていた。
- ・伝え方を学ぶ学習にも繋がると思った。「聞き手に端的にわかりやすく伝える」という国語との絡めることができると思った。
- ・探究して作成したスライドが今後活用されることで、さらに「主体的・対話的で深い学び」につながるのではないかと思う。

田野教諭・数学

- ・体験的に学習を進めることで深い学びが「できる」ことに繋がっていた。
- ・提示されている「わかる」「できる」「いきる」、「主体的・対話的で深い学び」というキーワード全てが網羅されている授業だと感じた。
- ・必要事項を理解しているため、スムーズに実践で公式を使うことができていた。「理解して、実際に使って、できるようになる」というサイクルができていた。
- ・教室のなかだけではなく、普段の暮らしの中でも「わかる」「できる」が実感できる題材研究をしていると感じた。
- ・体験的な活動を通して、生徒たちの「わかる」深めていた。生徒たちの主体的・対話的で深い学びにつながっていると思う。

6 校内研究会 アンケートより要点を抜粋

(1)「わかる・できる・いきる」の日常実践と「学習の手引き」による生徒への意識付けについて

【成果】

- ・授業を「わかる…」の視点で考えて作り上げる取組は、生徒にとっても、教師にとっても分かりやすく、授業を計画する上で効果的だと思う。
- ・生徒に示す「学習の手引き」でもキーワードとして取り上げられているので、教師、生徒ともに「共通言語」と教育的効果が高まることを期待。
- ・基礎、基本となる知識・技能の積み上げが「わかる」につながり、そこから「できる」という達成感が得られるような授業計画が必要と改めて理解。
- ・3つの授業を通して、「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業改善のイメージが、少しつかめたような気がする。
- ・「いきる」は確かに単元レベルでは本当にいかせたか把握できない部分はあるかもしれないが、こんなところに生かせたらとイメージをもつことだけでも大切だ。
- ・手引きにあるように、次の単元（学習）に前回の評価をどのように生かせたかを見ていけたらと思った。

【課題】

- ・「わかる」「できる」の結果は、授業内や単元に取り組んでいる短期間で見えるものだと思うが、「いきる」については、現場実習や家庭生活など我々教員側が居合わせない場面で発揮されることが多い力だと思う。卒業後の職業生活や社会生活の中で、生徒自身が実践したり感じたりすることを願い、これからの授業実践に取り組んでいきたいと思う。
- ・まず、「気づく」「わかる」を目指している。
- ・「理解して、実際に使って、できるようになる」というサイクルをいかに作っていくか。
- ・「いきる」については、学校生活や授業の中でどのような指導をし、どうすれば成果がでるのかということが見えにくいというのが正直な気持ちだ。卒業後の職業生活や社会生活の中に必要なことであり、学校生活で身に付けられることを、春に卒業した生達を見て、課題や足りなかった点を反省し、これからの授業実践に取り組んでいきたい。
- ・「わかる」「できる」「いきる」は、教師が学習の組み立ての中で意識して作らなければいけないが、特に、「いきる」は、学習と生活をリンクさせた授業を展開していくと思うので、生徒自身も実生活の中で「いかせる」ように日常的に意識付けられると、より効果的に生きる力につながると思う。

(2)「学習の手引き」案と今後の取組について

- ・「Hako cafe clover（学校が運営するカフェ）」の取組や関連する学習について、学習の手引きに追加して生徒に説明できるとよい。
- ・細部まで見切れていませんが、大枠で良いと思います。
- ・学習の手引きをきちんと読もうとする生徒は、授業もきちんと受ける。新しい取り組みが生徒の中にどれだけ入っていけるかだと思う。
- ・生徒に分かりやすいものは誰がみても分かりやすいので、大人もガイドブックよりも手引きの方をよく見るかもしれない。

6 校内研究会 研究協議及びアンケートから

校内研究会の研究授業及び研究協議等を通して、「わかる、できる、いきる」の視点について以下のようにまとめました。

- ①研究授業を通して「わかる…」の視点について共通理解を図ることができた。
- ②「授業デザインガイドブック」に示された内容は「主体的…学び」による授業改善の視点として概ね適当であると判断できた。
- ③「手引き」により「わかる…」の視点を生徒と教師の「共通言語」としながら、学校全体での授業改善を進めていくことを確認できた。

7 今年度の研究で助言者などからいただいた アドバイスなど

北海道教育大学 北村教授より（校内研究4 研究アドバイザー研修）

- ・「いきる」とは、獲得した資質・能力を発揮すること。「わかる」「できる」まではなんとかいけそうだが「いきる」が難しい。
- ・「学習の手引き」と「授業デザインガイドブック」をうまく連携させられるとよい。
- ・「手引き」は文字による説明を減らすとよい。

北海道北斗高等支援学校 渡辺教頭より（校内研究会）

- ・「わかる」「できる」「いきる」がわかりやすい。
- ・生徒と先生方が同じ方向を向いて取り組み、共通した授業の流れができるので、生徒は安心して取り組めるのでは。学習の手引きをぜひ活用していただきたい。

横浜市立本郷特別支援学校 坂本副校長より（地域連携研修 本校の研究についての説明へのアドバイス）

- ・学習は、「わかる」→「できる」の流れだけではなく、わからないままでも「できる」ことや、やってみたことで「わかる」など、往還的に進んでいくことも踏まえると良い。

※いただいたアドバイスを参考に、「学習の手引き」と「授業デザインガイドブック」の内容に追加、修正を加えました。

4

令和4年度 校内研究のまとめ

1 令和4年度 校内研究の成果と課題

(1)成果

- ア 昨年度の研究を受け、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善の在り方を「生徒自身の学び」になることと押さえ、そのような学びの視点を「わかる」「できる」「いきる」として整理することができた。
- イ アについての内容をグループ研究及び校内研究会研究授業を通して考察し、その妥当性について全体で検討、確認することができた。
- ウ アを実践に生かすための生徒向けの「学習の手引き」と教師向けの「授業デザインガイドブック」を、グループ研究を中心に加除修正し、全体で協議しながら作成を進めることで、より活用、教育効果の期待できる内容にまとめることができた。

(2)課題

研究授業を通して、「わかる…いきる」の視点による授業についての内容や、妥当性について、考え方としての共通理解を図ることはできたが、各先生の日常的な実践での取組状況やその成果や課題について具体的な調査、分析を行っていないため、まだ、日常レベルにおける指導での、学校全体としての有効性の確認には至っていない状況である。

2 研究仮説の検証

(3) 研究仮説の検証

【研究仮説】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、教師がその基礎・基本を踏まえた授業の在り方や組み立て方について具体的に共通理解を図り、実践をするとともに、生徒も授業の内容や進め方を理解し、教師と同じイメージをもって学習に取り組むことができるようになれば、生徒が見通しをもった「わかる」「できる」「いきる」授業となり、それぞれの学びの場における授業改善を深めることができるであろう。

今年度研究の成果と課題でまとめたように、各自の実践や研究授業を通して教師がその基礎・基本を踏まえた授業の在り方や組み立て方について具体的に共通理解を図ることはできたが、「学習の手引き」を生徒に示すまで至らなかったため、生徒も「わかる」「できる」「いきる」を意識した実践には取り組むことができなかったため、研究仮説については次年度の研究に継続し、そのまとめにおいて検証する。

3 「授業デザインガイドブック」と「学習の手引き」 及び関連資料の最終提案

別添の資料をご覧ください。

校内研究6アンケートにより、加除修正についてご意見をいただきます。

新年度の職員会議で確認し、活用していきます。

【資料】

- ①「授業デザインガイドブック 本編」(資料3)
- ②「学習の手引き」(資料4)
- ③「学習の手引き説明資料」(資料5)
- ④学習のルールとマナーチェックリスト(資料6)

5

令和 5 年度 校内研究の概要

1 令和5年度 校内研究の概要

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

3年次副題(案)：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の活用

2 取組内容

今年度の研究の成果と課題を受け、また、3か年の研究のまとめとして次の内容に取り組みます。

(1) 「わかる、できる、いきる」視点による授業の日常実践における有効性の確認

ア 「授業デザインガイドブック」から、改めて日常における学習指導の共通理解を図る。

イ 「学習の手引き」の生徒への説明と活用

ウ 前期終了時点での生徒へのアンケート調査

エ 年度初め、前期終了時点に先生方へのアンケートを実施し、生徒へのアンケートと比較

(2) (1)を基に「わかる、できる、いきる」視点の修正

(3) (2)を基にした公開研究会における研究授業

(4) 「わかる…いきる」視点による各教科等の単元・題材指導計画の作成

2 令和5年度 公開研究会

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

3年次副題(案)：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の活用

2 実施予定日 令和5年 11月17日(金) ※講師の予定により前後に調整

3 内容

(1)研究授業

ア 予定教科、学科

- ①教科等 体育科
- ②普通科 総合的な探究の時間
- ③職業学科 作業学習(食品デザイン科)

イ 研究授業の内容

「わかる、できる、いきる」視点による授業実践

(2)講演

6

今後の取組

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

「生徒自身の学び」となっているか、を意識して授業を進めていきましょう。

- ・教師の話を聞いているだけでは？**
- ・生徒が考えたい、感じたいしているか？**
- ・知的障害への配慮**
- ・学習の内容、方法が実態に合っているか？**

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

☆「基本的な指導事項」とした次の4つについては、どの授業でも、基本的に指導に含めてください。

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得
- ・「自己評価」の実施

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

☆「基本的な指導事項」とした次の4つについては、どの授業でも、基本的に指導に含めてください。

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得
- ・「自己評価」の実施

☆各教科等の特質や、単元の内容や期間によって、上記の設定や指導が難しい場合もあると思いますが、基本的には指導に含めることとします。

※特に「学習目標」は板書やプリントなど、授業時間中に意識できる状態にして提示することが望ましいですが、口頭などでもよろしいので、提示するようにしましょう。

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

☆「基本的な指導事項」とした次の4つについては、どの授業でも、基本的に指導に含めてください。

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得
- ・「自己評価」の実施

☆文言については、「学習のねらい」などの類似した表現は、生徒の混乱をさけるために用いないで、上記の表記をお願いします。

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

☆「基本的な指導事項」とした次の4つについては、どの授業でも、基本的に指導に含めてください。

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得
- ・「自己評価」の実施

新年度はじめに、生徒に「学習の手引き」を使って「わかる、できる、いきる」の学習の取り組み方を説明しますが、先生方には、今年度の残りの授業も引き続き取り組んでいただければと思います。よろしくお願いします。